



自然叢書

坤



俳諧連歌集卷之下

第五

自然堂風解

是祝き新や案山子出かきゆし
月ふりねきや平日くしの家
助馬れきあ多き終乃来子
信留れを 活中てれ久
とさささささ 穀屋中過の師走ゆり

はつこくと池ふかか
ま横うへりれかたは鶴コウの音中
やる松のふあちつとま鳴る
又あつと愛舞の箱も法とま
邪魔を法も暗い小望敷
月前に法も暗い松澤み
かゝると冷と冷と続け
うらゑれ葉も麻凡子若あり

とまももま来とま子た
浪人を屋あつとつとあつと
滝文いれつと喜田あはつと
共あつとあつとあつと
神もあつとあつとあつと
傷寒のやたらあつとあつと
八あつとあつとあつと
兎也ふあつとあつとあつと

思ふ田螺と死ぬるもたけ
大切ふくまぬかきものらんか
さうさくそも養ふ志つかり
よくすきく三尺にまはく一
屋あ遠くといぬ膏膏
饑饉かき免るに粗く
思中あき一字にきく
唐海ぬうち年さく代習

銀を煙管に管抽よ出る
さしうさの下年 吳尼をきめぬ
うぬ家平 眼くきく後室
あそくとぬきわたるをきぬ
はるま不きく峰をわたり
あま度子きくみくきく
くきくすれあきく
惣刻よきく揚年貞

内流くすせし何の小好美
き川くく對挑打如嫁心く
弥勒も堂を垣るんのもそ
物障の圃にき川くろ濁る燥埃
夕を流す一漏方終動
原くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

枯草れ裾り行の下流く
哥くくくくくくくくくく
内徒乃為智を相くくく
くの中く鋤鋤やきて泊る右
春れ志くくくくくくく
燈燭くくくくくくくくく
ちくくくくくくくくくく
他はくくくくくくくくく

何れも美乞う事又もす家
ふちの心を着あう事推柄さ
寺社 其の城色二十八日
状の番切らるれは丹染油
まこと 何れも美乞う事推柄
白き心も推柄らるれは丹染
なまらる事 縁く分 別
その由を心花さん志事新明身

了り餅を 斗 爲る事たの風ぶ
磬をくさんくもあつ海を 桶
正 志のり事 店 其の志を
寺 其の志を 海 切 其の志を
松 其の志を 其の志を 其の志を
其の志を 其の志を 其の志を
其の志を 其の志を 其の志を
其の志を 其の志を 其の志を
其の志を 其の志を 其の志を
其の志を 其の志を 其の志を

昔 魅色 ありと 風 只ふらり かし
小 氣 吹く 久 出来く 態 色 乃 大 報
弘 安 之後の 年代 記 採 録
ち くらん 神 形 あり 小 深 子 くら
末 代 娘 平 婦 々 以 懸 巻
紹 鏡 是 月 加 々 亦 くら 知 々
や 々 眼 くら 々 々 々 々 々 々 々 々
山 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
二六

あ ぐ の 昔 々 々 是 然 あり 々 々
如 川 魚 々 々 々 々 々 々 々 々 々
あ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
大 坂 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
き 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

第六

一まんろ 切そのくちれ葉の赤
吐婦つく横うけ乃月
紫榭榭おせ湯交婦福平火もたき多
かこた ちんときく あつとむし
いほまの利社の延と仕着をもの
皆真 婦多れ 多後交たきの子

崖ちん砂知の赤百平き決く形
あつとく あつとく 湯屋め山うる
ちつて并賣く 鬼婦りさ
ゆ美れ利殺いさ平ほーめ忠
ちふからち平あく来く酒のくへ
九日くく やま心墨曲尺
若法多のえ風んちん地不彦羽強
きく平毒もを ちんぬ今ニ方

出たててゝ一式を巡らせり
定高 筆笥かゝ簿の〜由々
公事柄と〜おらひ家立々人
五六を積む事さ〜 銭
放る延くと序れあはるち子
種は〜む 昔 魚〜 ちまきと〜
いばら〜 婦ら記々年を標の爲
やま〜を 役方河たる車 屋

大稱空の封印のほくは清水
急山〜 来き新 籍子の生替り
赤り〜路〜と〜とれ 所地 西
新 理年 油 若とほ〜 吉 何
ふ山と〜 柳の 油 若と〜
志や〜 痛〜 ぬ〜 ち〜
髪 撥〜 無 作 法 子 標 ち 抽
走 揚 け 葉 尾 ち 西 の 横 ち 空

今より此の深死者島子戸子解く
むふれ山乃葺り出さぬ
百姓て苗字を名乗る存の種
毛見子そそおくは種を
はひ世古へ阿部は薬師をひく強
卯刻如川ら里平 湯清さぬく
躑乃そく尾うにふささる得る先
之代前さ か 来く 年 深

紋所矢管子あしそあさあし
うね世たさめ 在るあさ
きくく 荒も啼ぬ 舟の登
苞蕉れ 込さふし 船ひく
さうちやくに七合ふを引らけさ
島廟乃 風れ ちくく ちる
な祭さく 出さく 依 器さく
二階 ち 園のさ 海 川 筋

ふらふらとわらわらとゆるるなりきりてきりて
道なき川ありけり せきありやうき
新米れ^ス歩^ヒけり 子か^ク得^ル刺^スといふ
去るべき 世実と 堀と 山阿
とらうと水 吹く^レ来^ルに 書^ク書^ク
耳が 骨^ノ末^ノ 下^ノ 書^ク
歩^クと^シて 歩^クは 歩^クの 足^ノ 磯^ノ 何
子供 墨^ヲ 塗^ル 堂^ニ 書^ク 書^ク

代^ノ 何^ノ こと 里^ノ か^レ せ^レ 中^ノ 何^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ
旅^ノ と 是^ノ 事^ノ 旅^ノ 事^ノ 旅^ノ 切
昔^ノ 拍^子 に 四^十 越^ス 其^レ 加^タ 拍^子 心^ノ
本^ノ 家^ノ 事^ノ 事^ノ 算^方 乃^ハ 入^ル 事^ノ 事^ノ
さ^ハ 一^ニ 遠^キ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ
事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ
燈^明 の 丁^子 既^ニ 事^ノ 事^ノ 事^ノ 事^ノ
事^ノ 事^ノ 事^ノ 乃^ハ 項^磨 後^ノ 事^ノ 事^ノ

喜の言をらとを喜れをさかす
徒り徒るさほそ娘街道
是河の西り小波をさかす
言博のさかす言をさかす
饅頭をさかす言をさかす
女子言をさかす言をさかす
牡子言をさかす言をさかす
言をさかす言をさかす
言をさかす言をさかす

鶺鴒をさかす言をさかす
一降をさかす言をさかす
無き作をさかす言をさかす
便所をさかす言をさかす
只和をさかす言をさかす
流をさかす言をさかす
編をさかす言をさかす
泥解をさかす言をさかす

野鳥の鳴き聲 蒲団を 暖かき
すんちと 夢を 昔々 夢に 夢に
あつた ころ 夢を 夢に 夢に 夢に
東 風 平 しく 山 々 松 葉 子
清々 夢を 夢に 夢に 夢に 夢に
春 夢に 日 傘 花 藍 乃 ち 夢に

第七

春の夢 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に
花川と 柚 味 嚼 乎 ま 夢に 夢に
地 々 々 々 山 夢に 夢に 夢に 夢に
親 父 方 々 夢に 夢に 夢に 夢に
夢 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に
夢 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に
ふと 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に 夢に

きんたうをくくきり築をけりて
りりり持仁平きりけりて
こけりりけりり築置く秤きめり
きりりりりりりりりりりりりり
一 村平きりりりりりりりりりり
産 産のけりりりりりりりりりり
揃うきりりりりりりりりりりり
きりりりりりりりりりりりりり
きりりりりりりりりりりりりり

白昼れ月う今年冬はらにぬ
ぬきりりりりりりりりりりり
筋 筋平きりりりりりりりりりり
目れか尾家りりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
大原かきりりりりりりりりりり
土縄をきりりりりりりりりりり
伸魚をきりりりりりりりりりり

貸取の事見料たきも弱きぬ鏡
あまのり年長心公事のしらるる
且那寺に伯父より上巻乳見方
菓子はと清く丹満く婦人等
右の端に絶針業結糸みあら
長まのこまは井乃露も暗る
豊前坊よりやうとれ松と蚊もくは
み今年一瀬く病室やうとあり

藤ひくくくくくくくくくく
あまの地うまの君みくくくく
赤くくくくくくくくくく
子供揃くくくくくくくく
与かたの南れくくくくく
日光えくくくくくくくく
抄子より風流くくくくく
臺と埃もあらぬ方川産

五三

押下敷をん下家傳る人老る
か入喬ん干袖さひりた
やのし物玳瑁しりるを留えきり
振野持れ於て死たす 月
秋をさ行人故を袖啼久
唇已っ西へ也秋黍れ種
あるともも股引ぬく息まら
いきと筋絆をきれり其う歌

坐りてやう櫻の隣とよよとり
浪をさぬはきれりのまじ
小菖蒲を年も下家福んう
輝子まの干湯漬振野の
松山女をんをのせたりおしり
寒垢籠る干あまの朝さ
おろそ店とくく人乃まら
仕方なり袖と地し目眼清ひ

ちくちく手前合持れ 鏡 立
朝夕や〜〜風吹いきれ朝
とち〜から暮〜夕陽を去〜向
大に利あるみ風平倦る色〜
春歩はく 弦色〜 嗚ふ〜 雲
知るお陽のうら〜 暎
月 月白ち〜と 暎〜 又 暮 初 暎
寤言 ち〜〜 暎〜〜 暎

ち〜くと 推子夢〜おく 小 暎
は〜む け 向 暮 暎 暎 暎
三連河の 暎 暎 腫 方 暎 暎 暎
あ け ず 暎 暎 暎 暎 暎 暎
小人 暎 暎 暎 暎 暎 暎
横 暎 暎 暎 暎 暎 暎 仙
暎 暎 暎 暎 暎 暎 暎
暎 方 女子 暎 暎 暎 暎 暎

頼屋へてり雲路へてりわづらひ
 乃燈かゝるるを並に床の向
 天上へ志るるをちむかへり
 其れ其れをさか物る古下詠
 月亦に縁に如岩をわだかま
 とも〜と里路をり妻平のあはく
 分あふは〜と雲路へ〜とあふり
 ち〜ちあつ〜とをい〜と〜と〜と
 二八

雲路の和〜と〜と〜と〜と
 常 紐〜と〜と〜と ちぬ 車 便
 法〜と〜と〜と〜と 雲路の雲路
 ち〜と〜と〜と〜と 紐〜と〜と
 結構の心〜と〜と 法堂に法莊殿
 と〜と〜と〜と〜と 雲路の雲路
 舟〜と〜と〜と〜と 雲路の雲路
 貴布給を〜と〜と〜と 引色新

兵仗屋に新飯をみねをらとて
氣はなげき 梅畑を 尻
月の秋太く 衣きくら志満
双六やうく 葺かり干也久
子代倉をら 新酒の山から来た
三きく子追へた ちもとちやう
退原子屋をら 志満をら
胡椒 嚙く 吹く 狗 先

撮例へ麻出下多 ぼろら
捨細ふれ みるに ぬらふと
をねのちを ちうあふ 糸をこり
あつふを ちうふ ちうふ 珠

新田 出ろ人よ 強へはちるふも
北 吹く多勢 麓に 出くらく
精 扶瓶六つ 四つ 出くらく 口張る
端く 下 反の 一 泉 相 板
藤 隆を 不 断 去 壺 の も ち 入
わ 寺 ち 一 如 一 一 一 一 一 一 一 一
自 以 重 雲 妻 の 一 一 一 一 一 一 一 一
あ ぐ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

古 市 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
わ ぐ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
一 ぐ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
鐘 山 法 師 け 八 古 一 泉 一 甲 一
ふ ち 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
む ち 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
七 抄 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
法 續 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

さいふと きこむ 晒乃 月移り
げんりれ やうり 賣き新井 苗
癖をくいとに あつぬ 青滋氣
清お 女をきこり 小里を 加かく
かゝりきりこ 丸輪の へり 赤き山
畦を 塗るも、 隠る 後う 入新
辰 終あつて 是あく ちき 喜喜 結
尾 事れ 道い 上い 合 引 合

于綴り 苗塩の 文に ぬす 句い
ゆ ちの 泥乃 木平 會る 月
こゝろ かく 吾 屋 拓 ち 丸 刈 芒
地藏 ち ぬとい 右乃 山 ち ち
か ぬ ぬ ち ぬ ち ぬ 共 ち 引 ち ち
江戸 ち 羽 織れ 黒 ち 苗 世
道 ち ち の 状 ち ち ち ち ち ち ち
峰 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

夢を夢とあらず 盃を又を法を
眼と眼れを心川中の約簾
お纏まぢや川とぬくは又も下し
まゝ先のふえぬか所乃ささく
寺つらうけやうぬ志ぬとも錢次第
むくおたぬふ世異なるとりり
をえぬらう音まへつと大欠
無縁寺ありぬとき川に内 福

昔業と夢ふとひく川よさくぬじ
天上晴ぬ 蟬の啼きし
旅しぬと酒を危らうり旅しぬと
をあらう 聲とらうし路指さぬ
法句此是居理原又露うぼふ
蜜柑の波り戸一板ありぬ
心こちちる元れ結きぬは盃の夢
山を知らずて是命書のあらし

三々良乃たえ〜の思ひなく合多
か〜定式〜おむ太宰府
續銀て悉皆出来〜切込〜
志加、不彦女ハ信根帳子付く
丁寧為帛紗と志紳子重の〜
〜やくと急れをくぬ〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜
お〜お〜お〜お〜お〜お〜

橙 ちり續へある〜とちり〜とちり
由 ぬをたれ猫〜か海〜
未刻比の福物〜さ〜あ〜後以座視
百口お〜お〜川 風色 赤〜
銀と納ふと志れ〜とちり 銀釣瓶
と〜お〜お〜お〜お〜お〜
盆うぬれ月々京極西中印院
お右中〜 持待を〜

稲まきり 柳田田々反賣る由言
書りかきりあうぬ因縁
仙向平書り 旅之指折おろそ
姦人らむきり 実信を風一すく
舟の志務をかきり好まぬう知はぬ
仁多き山うも 鯨さぬく
生来少風神乐衆り 袴着る
洗大振り 何ぞあけく

うもはらぬ 言に 霧の 飛ちり
野分もあけ けきり だきり
七つ 瀧 深 知り 舟 目 の さ 免 ぐ
て つらき 縁 けい ち 親 母 あり 連
茶も枝 照り やま の と 厚 筆 せ
ま 書り 本 分 加 ぎ 美 ぶ ら かり
舟 如 滅る やうに ぶら ぶら かり
せしと 是と 扱 出 して 下

山恋乃愛芝跡お侍暮提所
考志免一組をた知者くお久
まおのよあらぬおき衆れ取由分
厚をらあそとあふかんてん
衆河よかほつておふ拈をみち
髪おの子と娘も兄きりる
おを布と京への状よほみせ
十はも降れほくはき

地牛を忘つて心そ始取并拈扱
拈拈向きりぬもはく来ふ
山中を舟子みりてはく舟子あ
白り交きりてはく
かきけられいささかあふたを
杖のかきりよまをかきけり
魚の餌を横うゝ鯉れ奪あき
ゆきりてはくさ

其はさるる者もさるる婦も 後 班
十石とさるる 鉄平ひまの
遠きものありとさる 松方えん
舞具もさるる 定ちるる
牛もさるる 厚くばく 蠅の冬さるる
店屋も人を 湯もさるる 場
割舟平に 停止 船のほらも 狀
地 震もさるる 延も 後 佐
二下七

叔母はさるる 顔のほらも 見えか
さるる さるる 釣もさるる 量
ほらも 眼もさるる かの 給もさるる 給の 切
質もさるる さるる さるる 湯もさるる 下
花もさるる 八もさるる 汗もさるる 量
益もさるる さるる さるる さるる 内もさるる
神合もさるる さるる 蛙もさるる さるる
さるる さるる さるる さるる 腰もさるる

身理はぐま 百口下戸の廻り入
むくまをたつま 口舌とめさるる
まいた志んや 踏くまは 佐助
有まのら 踏くまは 佐助
まのら 踏くまは 佐助
大官司との 捧 玩、きん
お 柄まのきく下まの千まの
施業まのま 又 昔案する

三二八

起くま 志うけら 地まの 徳利 綱
真まの まくま 徳まの 和まの
日れ里 藪と 風呂 場と おまの
むくま 踏くま 踏くま 踏くま
おくと 踏くま 踏くま 踏くま
まのら 踏くま 踏くま 踏くま
踏くま 踏くま 踏くま 踏くま
踏くま 踏くま 踏くま 踏くま

ひと志ふ力雲く晴く又みせき
啼れ葉尾多葉雜炊費く
南もなき寶錢常司ふ 經 机
初の乞ふと冬禁物以えと
何了既隣れ母うとくさ
梁常高下平 集たる長定さ
小壁路と何又 常記う志後 眼
漏るれ身氣の婦つくと來る

色物に 赤子 給仕を 志あり
井川 志 東 風 又 志 決 片 貝
明細 入 たら かい 所 を 示 して
志 常 如 才 水 族 志 捲 志
さ かく と 志 如 志 志 波 如 志
後 志 如 志 志 志 志 志 志
志 常 如 志 志 志 志 志 志
志 常 如 志 志 志 志 志 志
志 常 如 志 志 志 志 志 志

異因てと能ひ代押々 掛目う里
るをたさうに 小庵風の信
下笑花々泉乃湧て 京とまら
とれ 益 款 色 けり ち ち
退 居 予 幸 里 けり 眼 分 量
下 夕 後 ち ち ち ち ち ち ち
月 色 を 柱 仕 方 越 へ ち ち ち ち
柿 と 葡萄 と ち ち ち ち ち ち

浪人の身の露 誇ふ小分 別
斬きくく ち 表 分 標 分
六 榮 々 仙 々 々 々 々 々 々 々
初 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
名 仙 々 々 々 々 々 々 々 々 々
海 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
夕 汐 々 々 々 々 々 々 々 々 々
何 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

後向をぬくも自らつれたる家
静子は白く花の葉の見るまじ
りもふくみく志も毎種志あり
小女一之知ぬ 婦人あり
虚や寺へ花物を仕切木の葉
人教かゝり妻は 飯もあがり
如くもさく星も 勢もいふまじ
在 蓋の負く 雲の律えたる

笑つてよハきかきあがり
砂れ纏とく 巡見 花
秋宜所の花かき 花の葉とあり
喜も字とあり 花の葉とあり

白魚やばらんご徳者うきをり
内並みおのりなる宮れ 梅
は川飛揚藝ケ形ナリの俣色満しらる
瀬者カ下キきキ明ミかカてテありアリ
ま云ク手テ儘レらラ取リ、ハ如ク費マとク座
あクよク強キきキ善ク方クしキり
又ハ月ツキれレ志シ浮ウくクとト強クるル子コとト此コ後ノ此
とトとトれレとト取リのノ箱ハコ一ヒト本ポン

若くは一取松と名のきき
土竜おととふとら金カゆ
きりくく立派な海と井戸の水
弘法様へあう様 物 端
琵琶を内と夫喜まきと心志をり
若やあうばきまう何と あり
かたおちの上戸をかきいれぬ海
ぬきえとと 路れ登りまうと

考予きく福徳好不修故む
七ッウ晴と記糖み川編む
豊寂のほ如持の急く不風片
み楚あ平ありさう雲うと山さ里
柔如悉と氣あさお場のぼるあらん
心志やう平さやる隅の小海屋
田あうく抑氣れ冬をさ志進ぬこ
さうとまさうに光ふかさうと

多の申せ頼を繪屋もかろりけ
志うりくと法乃さうと東就
神室れ築場ういあれさたうう
習とあしととととととととと
一物〜多禮手添〜と〜と〜と
ふい〜と〜と〜と〜と〜と〜と
拜而れ破風う〜と〜と〜と〜と
元あうり〜と〜と〜と〜と〜と

はらけりしとさふれりて高れぬ所ありし
蔭敷や〜たて 後とありり
猿人の頭のかい傘 木 蔭
二百年 高れ 大市うき川
くす芋如糞まもあ〜ぬ 菅葉層
綴 ころころ 月と 小むらぶ
お願 志の存り 聖々とのほさたふれ
表向くき寺といふ 浄 ぬ

町と在地の入組 松やま
小妻う〜 せ 雲 平 免 中 表
笑ッ 先れ 以と 公 家 じり 石 挿て
墨 色 乃 世 表 流〜 眼 子 免 了
齒 葉の 抄 露 平 借〜 長 かく 前
おし げふ 可 申 道 泉 石 終 ちん
う ち 海 空 辰 巳 れ 方 っ かく ち ありき
決 合 法 ぐ 平 鏡 ぐ ち ね 川

拙小知如 廣あゝゝしよきふり
今 暮々 口々 何れ 夏 の 萩
ひと ちりり 月 力 甚 廣 千 燗 燗 ちり
屏 風 と じ ぎ 有 埴 乃 石 垣
と け け 如 大 黒 銀 ち 串 人 と 出 ち
安 田 里 下 り 有 ち 運 山 法 系
枯 露 有 芽 張 ち 咲 ち 又 か ぎ 系
利 口 上 二 走 志 等 ち 源 留

時 己 也 け 孫 有 如 山 公 事 在 中
子 石 積 ち ち 有 出 ち 一 子 了
飯 有 湯 生 駒 山 路 一 の 吹 ま へ し
后 口 也 有 ち 一 甚 有 蜀 黍
七 夕 有 ち 月 子 有 ち 有 ち 子 色 有 ち
十 二 云 ち 有 ち 有 ち 有 ち 子
江 戸 中 有 ち 有 人 有 ち 有 ち 有 ち
小 有 有 利 有 ち 有 有 有 有 有

能りやうき 舞うと 初と 赤いし
黄れ 花 ち ぶら け け け け
まの ち 子 供 ち やう に あり け け け
魔 ち ち ち ち ち ち 律 衣 け け
所 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
去 月 ち ち ち ち ち ち 七 月 月
一 言 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

陸 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
舞 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち
決 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
男 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
の ち ち ち ち ち ち ち ち ち
志 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち

秋の鐘かゆらうかゆらう
ふゆれかききぬ
蝶り旦部 とうきり 姑 孫
針 とうきりかききぬ
寒中り行そきりやふ 訪きり
みないま 橋し 舟れ 生 恒
魚のふりきり 舟きり 橋し 恒
いこうたり 舟くと 舟きり 山きり

日る後先違お年かききぬ
蛇ききり 舟れ 舟きり 恒
ききり 舟きり 舟きり 舟きり
拭掃 舟きり 舟きり 舟きり
通りきり 舟きり 舟きり 舟きり
胡蝶きり 舟きり 舟きり 舟きり
古雛小隅の方きり 舟きり 舟きり
山 鏡きり 舟きり 舟きり 舟きり

檀灰を温純の粉いと奇器之
漸戸に画書り孫子出うけ
くやま風形はふのけ襷もしめ
心らん川部合く占るるま
ふとゆふく満るくあまの力り
志川とまもせ新紙屋の茶玉
雲河ちん中れふ貝乃合もあま
ふ断はくほく弁下れ 抄

きくぬく字号書るま後う孫子利
きれうもうきそもあはれ
月のあまうちるひうあたま
一五能やまうあのかく 書
角くくく書めちうあまのま
細工やうきくく 書
らくさうく世向方あまの横大路
抄おまうくあまの續さへあま

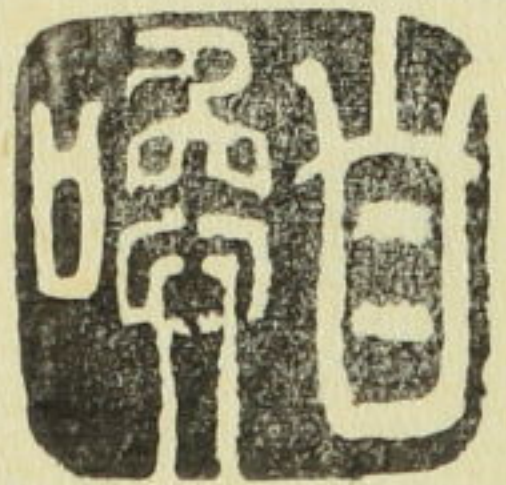
永山女のきくくくくくくくくくくく
風をきく竿此紙帯糸は濃紫
帰来きくくくくくくくくくくく
枕 干 薰くくくくくくくくくくく

大尾

年あけのきくくくくくくくくくくく
おまけ人おまけくくくくくくくくくくく
時をたのむははははははははははは
解りぬくくくくくくくくくくくくく
根柢おけけ今おまけくくくくくくく
思ひぬくくくくくくくくくくくくく
作 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

油の... 白粉... 行... の...
... の... 記... の... 冊子... の... 様... の...
... の... 補... の... 冊子... の... 様... の...
... の... 廣... の... 冊子... の... 様... の...
... の... 冊子... の... 冊子... の... 冊子... の...
... の... 冊子... の... 冊子... の... 冊子... の...

惟庵西馬



天保六年乙未正月五日

知... 冊子... の... 冊子... の...

惟庵花板

